

平成20年度 平塚市防災講演会

「災害に強い地域を築く処方箋」

地震、集中豪雨など自然災害が多発しています。
災害に強い地域社会を築くにはどうすればよいか考えてみませんか。

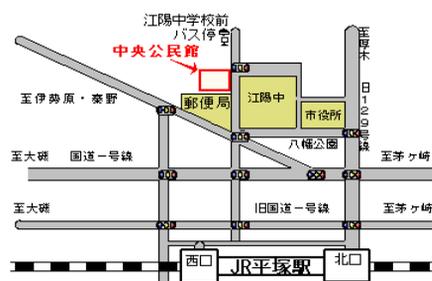
お隣ご近所お誘いあわせのうえ御来場ください。

日時：平成21年1月17日(土)
14:00～16:00(開場13:30)

会場：平塚市中央公民館

定員：700名(入場無料,申込不要)

主催：平塚市



講師：片田敏孝氏 群馬大学大学院工学研究科 教授

専門は災害社会工学。

災害への危機管理対応、災害情報伝達、避難誘導策のあり方等について研究するとともに、住民とのワークショップを通じた地域防災活動を全国各地で展開している。

また、内閣府「集中豪雨時等における情報伝達及び高齢者等の避難支援に関する検討会」委員、国土交通省・河川局「社会資本整備審議会 豪雨災害対策総合政策委員会」委員など、国・外郭団体・地方自治体の多数の委員会、審議会に携わり、研究成果を紹介しながら防災行政の推進に貢献している。



協力 平塚地区新聞販売組合

問合せ 平塚市防災危機管理部防災危機管理課

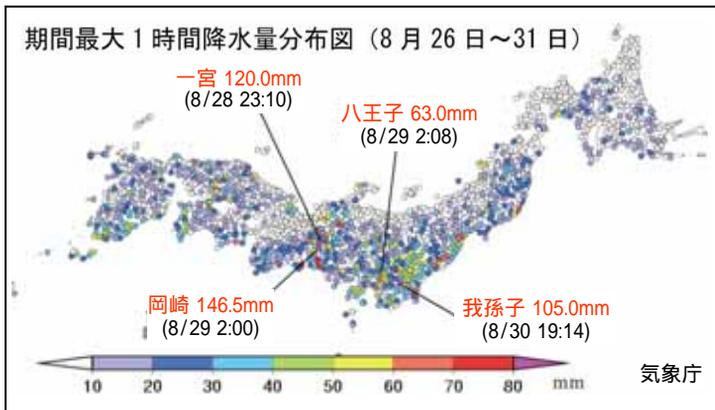
電話 0463(21)9734 (直通)
FAX 0463(21)9607

「災害に強い地域を築く処方箋」

群馬大学大学院 教授 片田敏孝

多発する自然災害

期間最大1時間降水量分布図（8月26日～31日）

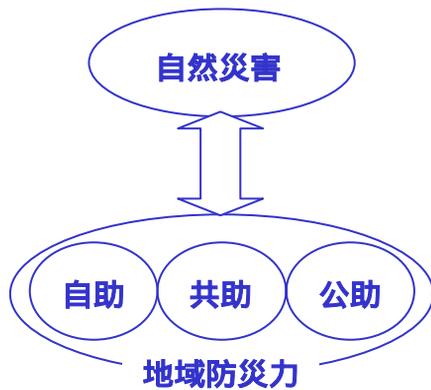


近年非常に災害が多発している、そんな感覚をお持ちではないでしょうか？平成20年は、東北地方で直下型の大規模な地震災害が2度も発生しました。豪雨災害も6月～8月にかけて全国各地で発生し、特に8月末には岡崎市で1時間雨量146mmを記録するような集中豪雨とそれによる洪水・土砂災害が発生しました。

平塚市に大きな被害を及ぼすと想定される東海地震は、今後いつ起きてもおかしくないといわれています。また、豪雨災害については、昨今の地球温暖化の影響で1時間に50mmあるいは100mmという雨の発生回数が多くなっています。このような豪雨は全国各地で起こりうるものであり、平塚市も例外ではありません。

講演会では、最近の地震・洪水災害の発生状況とそこにみる災害の特徴、東海地震での被害想定、地球温暖化がもたらす気象災害への影響や今後の傾向について説明します。

災害に強い地域社会とは？



今後起こりうる自然災害において一人も犠牲者を出さないようにするためには、市民の皆さんの自主的な避難行動、そして地域での助け合いが必要不可欠です。しかし、昨今の豪雨災害での住民避難をみると、自宅周辺で浸水がはじまり危険な状況になっても、自らの判断では避難することができず、行政からの情報がなければ避難できない、いわば防災に対して行政依存の状態の住民が多くなっているように思われます。

行政のみが防災に取り組むだけでは限界があります。個人の備え・対応による自助、地域コミュニティによる助け合いの共助、行政対応による公助の三者がお互いに協力しあい、災害に立ち向かう地域社会こそが、「災害に強い地域社会」といえるでしょう。

講演会では、防災に対して行政依存の状態にある住民意識の実態を過去の災害事例から見るとともに、災害に強い地域社会とは何か、また災害に強い地域社会を築くためにはどうすればよいのかを、各地の取り組み事例を紹介しながら、皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

居安思危(こあんしき)「居安思危、思則有備、有備無患」

やす い あやう おも おも そな そな うれ な
「安きに居りて危きを思ふ 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し」

「備えあれば患いなし」の下りは、皆さんよくご存知だと思います。備えれば患いが無くなることは当たり前のことです。重要なことは、安きに居る今、どれだけ災害時に起こりうる危険を思い、それに備えられるか、ということです。

安きに居る今、これから起こりうる災害にどう備えるべきか、皆さんと考えていきましょう。